

両陛下 11日に大館へ

国体鳳鳴会場へ御臨席

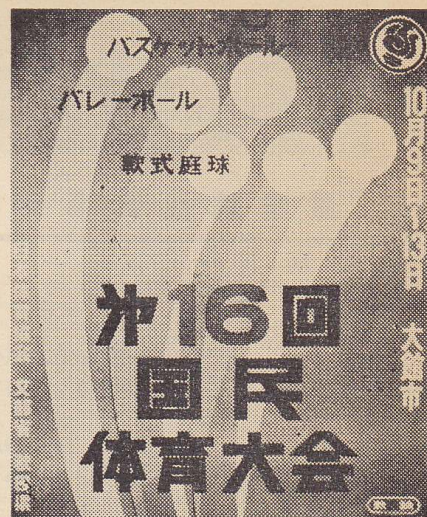
天皇、皇后両陛下は、本県で開催される第16回国民体育大会にご臨席のため、10月7日秋田にお出になり、13日までの7日間県内をご視察になられます。

大館市には10月11日、鷹巣から御料車(自動車)で国道7号線下川沿地内をとおり、末広町一長倉町一片町を経て、午後2時40分鳳鳴高校にご到着になります。

これより鳳鳴会場での競技をご覧になられて、午後3時10分鳳鳴高校をお発になり、片町一長倉町一大町一鍛冶町一常盤木町を経て、午後3時30分東大館駅からの御召列車で湯瀬へむかわれます。

御道筋での奉迎については、つぎのようにご協力ください。

- 沿道の要所要所には警察官や市の係員が整理にあたりますから、奉迎される方々はよく整理員の指示に従ってください。
- 陛下がお出になる10月11日には慶祝の意味で、国旗の掲揚をおすすめています。
- 御道筋で歩道、車道の区別のあるところには、歩道の前列に小中学校生徒の奉迎位置を指定しておりますから、一般の奉迎者はその後の方に、ならんで奉迎してください。
- 歩道車道の区別のない道路には奉迎の位置を示す白線が引かれる予定ですがこのような場所では、老人や子供さんを前にして秩序よくならんで奉迎いたしましょう。
- 一般の奉迎は鳳鳴高校正門から競技場までの陛下の御通路の両側と、東大館駅構内ではできませんが、それ以外の沿道では自由に奉迎できます。
- 服装は特に改める必要はなく、雨天の場合は雨具をつけたままでさしつかえありません。
- 自動車の列は14台くらいで、長くなりますが全部の自動車が通過するまで奉迎の列をみださないでください。
- 写真を撮る場合も奉迎位置から撮り、列から飛び出さないでください。
- 御道筋は清潔に、気持よくお迎えするため清掃、散水にご協力ください。なお陛下のお乗りになる御料車は、先頭の白バイから3輛目で、菊花御紋章のついた「あづき」色のお車で天皇旗がたて



られています。また、お召列車では機関車から4輛目で、やはり菊花の御紋章がついています。

秩父宮妃殿下も 12日にご来市

秩父宮妃殿下は去る33年10月6日大館を訪れ、大火の復興状況をご視察になり「しっかり頑張ってください」と激励されましたが、それからちょうど3ヶ年ぶり、再び大館を訪れることになりましたこの日は二ツ井町で国体競技のファンシングをご観戦ののちお車で大館にむかわれ、15時鳳鳴会場へご到着ののち30分間競技をご覧になり、15時30分青森県へむけてお発ちになります。

1週間の印象が80年の印象 遠来の選手におしめない拍手を!

国体をあすにひかえて、いまさら親切運動がどうの、明朗運動がどうのと云っている段階ではないでしょう。運動の段階はとうにおわって、実践していなければならぬ段階だからです。

しかし、いってみればこの国体、80年に一回、全国から集まったお客さんに、大館の土地を、そしてそこに住む人柄をテストされる試験期間のようなもの。

いいことも、悪いことも、これから80年の間、大館の、また毎年どこかで開催される国体の話題のたびごとに、大館を訪れた2,000人の人たちの口から口へ云い伝えられ、大館から感じとった実感として全国に、そして将来に根強く印象づけられていくことだろう。

私達は、親切、明朗、健康、殊に清潔という秋田国体のスローガンのいいことを知っています。またその具体的なことについても同じです。

乗物でも、旅館でも、食堂でも、商店でも、家庭でも、すべての生活のなかで

気をよくしたこと、気を悪くしたことがある筈です。私達は相手の身になって、ものごとを判断し、それに応えようとする。人間性、そうしようと努力することが、すなわち親切であり、明朗、清潔たるのすべてであると思います。気をよくしたことは自分でもすすんでやり、気を悪くしたことは、自分はやらない。ただそれだけの努力で社会は明るくなるのです

国体をあすにひかえて、今後80年の大館を、いい面で印象深いものにするように、いま一度みんなで自覚しあおうではありませんか。

7日多彩に 選手歓迎の集い

国体の「選手歓迎の集い」を10月7日(雨天の場合は9日夜6時)午後2時から3時40分まで、大町、鍛冶町の、新しく舗装された国道で華やかに開催しますプログラムには○小学生 800人による鼓

笛隊の演奏、○市長歓迎のあいさつ ○桂高校生 600人による合唱(県民の歌、若い力)○鳳鳴高校、一中、二中、三中のブラスバンド演奏 ○谷地町、大下町松木の獅子舞 ○婦人会による民謡踊、など多彩な催しとなっています。おさそいあわせのうえ、ご観覧ください。

旗の立て方を 間違いなく

国旗と国体旗を二本立てるとき、見る方の側から旗に向って左側が国旗、右側が国体旗になります。交叉させる場合も旗そのものが左に国旗、右に国体旗がくるようにします。国体旗と市旗の場合は左に国体旗右に市旗。国旗、国体旗、市旗の三本を立てる場合は、真中が国旗、左が国体旗、右が市旗になるようにします。二本の場合は上位旗が左、三本の場合は上位旗が真中で次位の旗が左になることを誤りなく。